

2024（令和6）年度

香川県立保健医療大学大学院

保健医療学研究科

博士前期・後期課程

臨床検査学専攻

学生募集要項

- 出願期間 2023（令和5）年10月11日（水）～10月18日（水）
- 試験期日 2023（令和5）年10月28日（土）



香川県立保健医療大学

The Graduate School of Kagawa Prefectural University of Health Sciences

博士前期課程

目 次

I	募集人員	1
II	選抜区分	1
III	出願資格	1
IV	事前相談	2
V	出願資格審査	2
VI	出願手続	3
VII	入学願書等の記入要領	6
VIII	入学願書等の書類	7
IX	選抜方法等	8
X	合格発表	10
XI	入学手続等	11
XII	ホームページ	12
XIII	問い合わせ先	13
保健医療学研究科		
I	基本理念・目的	14
II	アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	14
III	博士前期課程(臨床検査学専攻)の概要	15
1	専攻の名称及び構成	15
2	学位の名称	15
3	教育目的・教育課程の特色	15
4	授業科目一覧	17
5	修了要件等	18
6	授業科目の概要	18
入学試験会場案内図		裏表紙

I 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	3人（社会人選抜を含む。）

II 選抜区分

「一般選抜」及び「社会人選抜」を行います。ただし、出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

III 出願資格

1 一般選抜

出願できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとします。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2024（令和6）年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2024（令和6）年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2024（令和6）年3月修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2024（令和6）年3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2024（令和6）年3月修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2024（令和6）年3月までに学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2024（令和6）年3月までに修了見込みの者
- (8) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定により文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

- (11) 学校教育法第 83 条に定める大学に 3 年以上在学した者又はこれに準ずる者として学校教育法施行規則第 160 条に規定する者であって、本学大学院において、本学の所定の単位を優秀な成績で修得したと認める者

※ 出願資格(10)により出願を希望する者は、出願前に個別の出願資格審査が必要です(「V 出願資格審査」を参照してください)。

2 社会人選抜

出願できる者は、次の基準をすべて満たすものとします。

- (1) 「1 一般選抜」の出願資格の条件を満たす者
- (2) 臨床検査技師又は薬剤師等の免許を有する者
- (3) (2)の国家資格者として、通算 3 年以上の実務経験を有している者又は 2024 (令和 6) 年 3 月 31 日までに通算 3 年以上の実務経験が見込まれる者

※ 実務経験とは、医療機関並びに臨床検査学関係の教育・研究・行政機関での従事とします。詳細につきましては、事前相談の際、教員にご相談ください。

注 大学院設置基準に基づく授業時間などの特別措置

社会人の方が働きながら学べるよう、大学院設置基準第 14 条の規定により、必要に応じて、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行う途を設けています。

また、申し出により標準修業年限(2年)を超える一定期間の計画的な履修を認めることも可能としていますので、希望される方は、次の「IV 事前相談」による相談の際に、あわせて教員にご相談ください。

IV 事前相談

出願を希望する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と相談することが必要です。

希望する特別研究の専門領域と教員の選択に当たっては、臨床検査学特別研究(25～27ページ)の「講義等の内容」及び「担当教員」を参照してください。

事前相談の申し込みは、2023 (令和 5) 年 8 月 14 日(月)～9 月 25 日(月)までに、香川県立保健医療大学事務局教務・学生担当(TEL087-870-1212)まで連絡し、希望する教員と事前相談を行ってください。なお、この申し込みの受付時間は、午前 9 時から午後 5 時まで(土曜、日曜及び祝日を除く)とします。

また、次の「V 出願資格審査」を希望する者は、当該申請前まで(2023 (令和 5) 年 9 月 25 日(月)まで)に事前相談をすませておく必要がありますので、留意してください。

V 出願資格審査

一般選抜出願資格(10)(社会人選抜で一般選抜出願資格(10)に該当する者を含む。)で出願を希望する者は、あらかじめ、出願資格の審査を行いますので、「2 提出書類」を封筒(封筒表面に「保健医療学研究科出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。)に入れ、「書留郵便」で郵送又は持参してください。

1 申請期間

2023（令和5）年9月13日（水）から9月25日（月）まで

- ・郵送する場合 9月25日（月）午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

2 提出書類

(1) 一般選抜、社会人選抜共通

- ① 出願資格審査申請書(本学所定様式)
- ② 最終出身学校等の卒業(見込)又は修了(見込)証明書
- ③ 最終出身学校等の成績証明書又は調査書等(出身学校等の長が作成し、厳封したもの)
- ④ 審査結果通知返信用封筒(長形3号の封筒の表面に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し、434円分の郵便切手を貼付したもの)

(2) 社会人選抜及び一般選抜出願資格(10)に該当する者のみ

- ① 在職期間証明書(本学所定様式)
- ② 免許証の写し(臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許証の写し(A4サイズに縮小のこと。))

※1 上記書類の作成に際しては、記入要領及び「VI-3 出願書類」の摘要欄を参照してください。

※2 申請書類受理後は、提出された書類は、理由のいかんを問わず返還しません。

※3 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。

3 提出先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

4 審査結果の通知

出願資格の審査結果は、2023（令和5）年10月5日（木）に本人あてに郵送で通知します。

2023（令和5）年10月10日（火）までに届かない場合は、前記「3 提出先」に電話で照会してください。なお、認定された方は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

VI 出願手続

1 出願期間

2023（令和5）年10月11日（水）から10月18日（水）まで

- ・郵送する場合 10月18日（水）午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

2 出願方法

志願者は、出願書類を一括して本学所定の出願書類提出用封筒に入れ、「書留郵便」で郵送又は持参してください。

3 出願書類

出願書類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入 学 願 書	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入してください。
写 真 票・受 験 票	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入し、縦4 cm×横3 cmの同じ写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前6か月以内に撮影したもの、カラー・白黒どちらでも可)の裏面に氏名を明記し、所定の欄(2か所)に貼付してください。
卒 業 ・ 修 了 (見 込) 証 明 書	◎	◎	最終出身大学等の長又は出願資格に該当する出身学校長が作成したものを提出してください。なお、本学を卒業見込の者は提出する必要はありません。 ※ 「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
成 績 証 明 書	◎	◎	最終出身大学等の長又は出願資格に該当する出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 なお、成績証明書の成績欄に編入学等により認定されている科目がある場合には、編入学前の学校の成績証明書も併せて提出してください。 ※ 「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
学 士 の 学 位 授 与 (見 込) 証 明 書 等	○	○	「Ⅲ 出願資格」の1-(2)で出願する者が提出してください。 学位授与機構が発行する学士の学位授与(見込)証明書若しくは短期大学長又は高等専門学校長の発行する学位授与申請(予定)証明書を提出してください。
志 願 理 由 書	◎	◎	(本学所定様式) 本研究科への志望動機、志望専攻・領域において希望する研究テーマを記入してください。
在 職 期 間 証 明 書	○	◎	(本学所定様式) 「Ⅲ 出願資格」の1-(10)又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 ※ 「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
承 諾 書	○	○	(本学所定様式) 在職のまま出願しようとする者は、所属長による承諾書を提出してください。

出願書類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
免許証の写し	○	◎	「Ⅲ 出願資格」の1-(10)又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 臨床検査技師又は薬剤師等の国家資格に係る免許証の写しをA4サイズに縮小してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
入学選考料	◎	◎	入学選考料は、30,000円です。 30,000円の普通為替証書を出願書類と併せて送付してください。 ※ 普通為替証書には何も記入しないでください。
証券送付書	◎	◎	(本学所定様式) 記入方法等は、本用紙を参照してください。
受験票返送用封筒	◎	◎	(本学所定様式) 住所、氏名、郵便番号を記入し、切手434円分を貼付して提出してください。手続き完了後、受験票を返送します。
<p>※1 ◎印は全員必須、○印は該当者のみ提出する書類です。</p> <p>※2 外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。それが困難な場合は、ご相談ください。</p> <p>※3 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。</p> <p>※4 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。ただし、「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。</p> <p>※5 日本国籍を有しない者は、入学に際して、別途提出いただく書類があります。</p>			

4 出願先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

5 出願上の注意

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理できませんので、十分注意してください。
- (2) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 出願書類及び入学選考料は、出願書類受理後、理由のいかんを問わず返還しません。
- (4) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので、注意してください。
- (5) 出願手続を完了した者には、受験票を郵送します。
なお、2023（令和5）年10月24日（火）になっても受験票が届かない場合は、前記「4 出願先」に電話で照会してください。
- (6) 障がい等を有する等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者は、2023（令和5）年9月25日（月）までに、あらかじめ前記「4 出願先」に連絡し、相談してください。
- (7) 出願書類から取得した個人情報、入学試験に係る資料としてのみ利用し、取得した個人情報を第三者に提供することはありません。

VII 入学願書等の記入要領

◎ 共通事項

- 1 *印の欄には、記入しないこと。
- 2 *印の欄を除き、各書類の注意事項等にそって必要事項を記入し、又は該当項目に○をつけること。
- 3 記入に当たっては、黒色のペン又はボールペンを使用し、楷書ではっきりと記入すること。

○ 入学願書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「出願資格」欄は、出身学校等の名称及びその卒業等年月を記入し、事前の出願資格審査で認定を受けた者は、その認定番号を記入すること。
- 4 臨床検査技師又は薬剤師等の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。
- 5 「現住所」及び「合格通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。
なお、「合格通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。
- 6 裏面の「履歴書」欄には、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。
- 7 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

○ 写真票・受験票

- 1 それぞれ所定の欄に縦4cm×横3cmの同一写真を貼付すること。
- 2 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー・白黒のどちらでも可、出願前6か月以内に撮影したものであること。
- 3 写真の裏面に、氏名を明記しておくこと。
- 4 記入内容が、入学願書の記載内容と一致するよう確認すること。
- 5 その他、受験票裏面の注意事項を参照のこと。

※ 入学願書・写真票・受験票は切り離さないで提出すること。

○ 出願資格審査申請書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「履歴事項」欄の「学歴」及び「実務経験(職歴)」は、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

また、臨床検査技師又は薬剤師等の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。

- 4 「現住所」及び「審査結果通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。

なお、「審査結果通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。

- 5 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

上記の他、各書類に記載している注意事項に従って記入すること。

VIII 入学願書等の書類（別添封筒に在中）

1 出願書類

- (1) 入学願書・写真票・受験票
- (2) 志願理由書
- (3) 在職期間証明書
- (4) 承諾書
- (5) 証券送付書
- (6) 受験票等返送用封筒
- (7) 出願書類提出用封筒

2 出願資格審査書類

- (1) 出願資格審査申請書

Ⅹ 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験（専門科目、英語）及び面接の結果並びに出願書類等を総合して、総合得点で可否を判定します。

なお、総合得点と同点の場合は、専門科目の点数が高い者を優先します。

1 試験科目等

科目等	配点	備考
専門科目	200	専攻に関する問題
英語	100	英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
面接	100	個人面接

※ 配点は、一般選抜と社会人選抜では異なります。

区分	科目等	配点
一般選抜	専門科目	200
	英語	100
	面接	100
	合計	400
社会人選抜	専門科目	225
	英語	75
	面接	100
	合計	400

※ 社会人選抜は、一般選抜と同様に、専門科目は200点満点、英語は100点満点で採点し、専門科目を1.125倍とし、英語を0.75倍とします。

2 試験日程（一般選抜・社会人選抜共通）

試験日	試験科目等	時間
2023（令和5）年 10月28日（土）	受験者集合	9:00
	注意事項等連絡	9:00 ～ 9:15
	専門科目	9:20 ～ 10:50
	英語	11:10 ～ 12:10
	昼食	12:10 ～ 13:00
	受験者集合	13:00
	面接	13:10 ～

3 受験上の注意事項

- (1) 入学試験当日は、午前9時までに試験室に入り、受験票を机の上に置いて着席してください。

なお、受験票を忘れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。

- (2) 集合時間に遅刻した場合は、学力試験開始後 30 分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長及び面接試験における遅刻は認めません。
なお、面接は受験者ごとに開始時間が異なりますので、注意してください。
また、学力試験を受験しなかった者は、面接を受けることはできません。
- (3) 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- (4) 机の上には、受験票・HB又はBの鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）・英和辞書 1 冊（英語の試験のみ（電子辞書の持ち込みは不可））以外のものは置かないでください。
- (5) 携帯電話、スマートフォン等は、電源を切ってカバンの中にしまっておいてください。
- (6) 昼食（飲み物を含む）は各自で準備してください。校内の自動販売機は利用できません。

4 試験会場

香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

※1 試験会場は、裏表紙の**入学試験会場案内図**を参照してください。

※2 試験会場の下見はできますが、建物内への立入りはできません。

※3 合否電報・電話の取扱い等の勧誘をする者があっても、**本学とは一切関係がありません。**

X 合格発表

1 発表日・発表方法

2023（令和5）年11月2日（木）午前9時に、香川県立保健医療大学 アプローチ広場掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には、文書で通知します。

また、本学のホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>）上においても、合格者受験番号を掲載します（同日午前9時過ぎの予定）。

なお、ホームページ掲載は、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は、本学掲示板、合格通知書で行います。

2 追加合格

入学手続き者が入学定員に満たなかった場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格は、2023（令和5）年11月10日（金）午後5時以降、該当者あてに入学願書に記載された連絡先に電話で通知します。この電話連絡は、2023（令和5）年11月13日（月）までに行うよう配慮しますので、この期間は、入学願書の連絡先に所在する等、本人と直接連絡が取れるようにしておいてください。

なお、追加合格者の入学手続等については、追加合格通知時に指示します。

3 その他

- (1) 電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。
- (2) 合否以外の受験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- (3) 香川県個人情報保護条例に基づく入学試験成績の簡易開示について
受験者本人の請求に基づき、次の要領により開示します。

- ・請求期間

2023（令和5）年11月2日（木）～2023（令和5）年12月4日（月）（土曜、日曜及び祝日を除く。）

- ・開示内容

科目別得点及び総合得点

- ・請求方法

受験者本人が、本学事務局窓口の本学の受験票を持参のうえ、請求してください。
（受付時間は、9：00～12：00 及び13：00～17：00 です。）

XI 入学手続等

1 入学手続の期間

2023（令和5）年11月6日（月）から11月10日（金）まで

- ・郵送する場合 11月10日（金）午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。

2 手続場所

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当（TEL 087-870-1212）

3 入学手続

- (1) 上記2の場所へ、「4 提出書類等」を一括し、書留扱いの郵便又は直接持参により提出してください。
- (2) 上記1の期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (3) 入学手続を行うのは、代理人でも差し支えありません。
- (4) **入学金は、納入後、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (5) 詳細については、合格通知時に通知します。

4 提出書類等

- (1) 誓約書(本学所定様式)
- (2) 卒業(修了)証明書(卒業(修了)見込みで受験した者は、卒業(修了)証明書を別途指示する日までに提出すること。)
- (3) 学位授与証明書(学位授与見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (4) 入学金の領収書のコピー
- (5) 縦4cm×横3cmの同じ写真2枚(正面上半身無帽、背景なし、最近6か月以内に撮影したもの、カラー、裏面に専攻名・氏名を明記したもの)
- (6) ア 本人が令和5年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
本人の住民票（マイナンバーの表示がないもの）
イ 本人の配偶者又は一親等の親族が令和5年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
配偶者又は一親等の親族の住民票（マイナンバーの表示がないもの）及び本人との関係を証明する戸籍抄本

5 入学金（予定金額）

- (1) 県内者 197,400円
- (2) 上記以外の者 366,600円

※ 「県内者」とは、2023（令和5）年4月1日以前から引き続き香川県内に住所を有する者並びにその配偶者及び一親等の親族をいいます。

6 授業料（予定金額）

- (1) 年額 535,800 円
- (2) 各年度に係る授業料は、前期及び後期の2学期に区分して納付するものとし、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とします。
 - ① 前期納付期限 4月末日 (267,900 円)
 - ② 後期納付期限 10月末日 (267,900 円)
- (3) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

7 授業料等減免制度

経済的理由その他やむを得ない事情により授業料等の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認めた学生に対し、授業料等の全部又は一部を免除する制度等があります。

8 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金には、第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）の制度があります。

- ・ 第一種奨学金
特に優れた学生で経済的理由により著しく修学に困難がある者
貸与月額（2023（令和5）年度） 50,000 円、88,000 円のうち希望額を選択
- ・ 第二種奨学金
優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者
貸与月額（2023（令和5）年度） 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、150,000 円のうち希望額を選択
※ 詳細については、独立行政法人日本学生支援機構ホームページ(<http://www.jasso.go.jp/>)を確認ください。

9 その他の必要経費等

入学後には、教科書、教材等に係る経費及び後援会費等が別途必要になります。
後援会費については次のとおりです。

- ・ 年会費 20,000 円
- ・ 教材用経費等 2年間分 30,000 円
- ・ 納付期限 4月末日（年会費は、2年次も必要です。）

なお、学生は傷害事故及び賠償事故等についての保険に加入しますが、当該保険料は後援会費の中から負担します。

10 その他

学生寮はありません。

XII ホームページ

大学案内や入試情報を掲載したホームページを開設しています。

URL <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>

XIII 問い合わせ先

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当
〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

Fax 087-870-1202

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の健康と自立の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人を育成する。また、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、高度な専門知識を持ち、新規かつ独創的な研究成果を発信する研究能力を持つ教育者・研究者を育成することにより、地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与する。

II 臨床検査学専攻のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 生命を尊重し、いたわりの心をもつ人
- (2) 臨床検査に関する基本的な知識・技能・態度を有している人
- (3) 臨床検査学の領域におけるさまざまな課題についてリサーチマインドを持って探究し、解決に努力する人
- (4) 新たな臨床検査技術の開発に向けた研究を行いたい人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育目的、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査技師の役割と機能が拡大・多様化するなかで、高度先進医療への対応と新しい検査技術の開発、チーム医療、地域包括ケアシステムに貢献できる高度専門職業人としての臨床検査技師を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

専門共通科目 12 単位以上(先端医療学、保健医療福祉論、チーム医療特論の必修 6 単位、選択 6 単位以上)、専門領域科目 8 単位以上(選択した特別研究が属する領域科目から特論 2 単位及び演習 2 単位、さらに他の領域科目も含め 4 単位以上)、特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得とする。

- (1) 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学について学修する。
- (2) 病因解析検査学領域では、病原微生物、生態防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学について学修する。
- (3) 食品などの健康科学分野における科学的な検証システムの構築などを通して人々の健康志向への対応や、社会医学分野における保健医療福祉に貢献できる方法について学修する。
- (4) 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門における管理指導的役割について学修する。
- (5) 特別研究は、研究課題となる専門領域科目の特論と演習における学修に連動した研究を遂行し、専門性を深く探究した修士論文を完成とする。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で修士論文を作成し、本研究科が行う修士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の修士学位を授与する。

- (1) 国際専門誌の読解力を備え、全国学会でも 研究を発表する能力があること。
- (2) 研究テーマに自主性や独創性があり、研究仮説の立案から実証までのすべての過程の説明能力を有すること。

Ⅲ 博士前期課程（臨床検査学専攻）の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	領域名
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	病態機能検査学領域
		病因解析検査学領域

2 学位の名称

修士（臨床検査学）：臨床検査学専攻の各領域の課程修了者

3 教育目的・教育課程の特色

(1) 臨床検査学専攻の教育目的

次の能力を修得することを目的とする。

- ① 臨床検査学の特定の領域や遺伝子診断などの先進医療において、その専門性をこれまで以上に追究し、より高度な学術理論と実践能力をもってチーム医療の場で指導的役割を担う能力
- ② 輸入感染症や新興・再興感染症への対応、生活習慣病の予防など、国際協力活動や地域の要請に応じた保健医療活動を展開する能力
- ③ 環境・食品などの健康科学における科学的な検証システムの開発など、人々の健康増進に貢献する能力
- ④ 優れた臨床検査技師の養成や社会人教育、また新しい検査技術や機器の開発など、臨床検査学の発展に貢献する教育・研究能力

(2) 臨床検査学専攻の教育課程の特色

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域とした。

- ① 病態機能検査学領域では、神経系、循環器、呼吸器、腎機能など種々の生理機能検査や病理学的・細胞学的検査に基づく病態の解析法について、より専門性を深め、病態を解析・診断するための臨床検査学を探究する。また、種々の生体機能と病態との関わりについても学問的関心を深め、新しい検査技術の開発や学問の発展に貢献するとともに、高度先進医療やチーム医療の場で指導的役割を果たすことができる能力を学修する。
- ② 病因解析検査学領域では、病原微生物、生態防御に関わる免疫系、生体の代謝に重要な生化学的マーカー、遺伝子・染色体及びその関連物質等、病気を引き起こす要因について、より専門性を深め、病因を解析するための臨床検査学を探究する。また、新たな検査診断法を開発できるような研究能力と高い技術力を養い、この分野における学問の発展と高度先進医療に貢献できる高度専門職業人を養成する。さらに、これらの技術力を生かし、チーム医療、感染症対策、アレルギー対策、生活習慣病の予防など、地域の保健医療活動で指導的役割を担うことができる能力を学修する。

- ③ 膨大な量の検査情報を効率よく管理し、病態解析や病因解析に有効に利用するための検査情報管理法や検査部の管理運営法についても専門性を深め、検査部門で管理指導的役割を果たすことができる能力を学修する目的で、専門共通科目に「検査総合管理学」と「医療情報管理学」を配置した。

4 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			備考	
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
専門共通科目	先端医学論	1 前	2		○			オムニバス※	
	保健医療福祉論	1 前	2		○				
	チーム医療特論	1 後	2		○			オムニバス※	
	生命・医療倫理論	1 後		2	○			※	
	検査総合管理学	1 後		2	○			オムニバス	
	医療情報管理学	1 後		2	○				
	食理学	1 前		1	○				
	検査研究方法論	1 後		1	○			オムニバス	
小計(8科目)		-	6	8	-				
専門領域科目	病態機能検査学領域	生体機能検査学特論	1 前		2	○			
		生体機能検査学演習	2 前		2		○		
		病態解析検査学特論	1 前		2	○			
		病態解析検査学演習	2 前		2		○		
		病理病態検査学特論	1 前		2	○			
		病理病態検査学演習	2 前		2		○		
		血液病態検査学特論	1 後		2	○			
		血液病態検査学演習	2 前		2		○		
		神経生理機能検査学特論	1 前		2	○			
		神経生理機能検査学演習	2 前		2		○		
	小計(10科目)		-	0	20	-			-
	病因解析検査学領域	病原因子検査学特論	1 後		2	○			
		病原因子検査学演習	2 前		2		○		
		生体防御検査学特論	1 後		2	○			
		生体防御検査学演習	2 前		2		○		
		生体化学検査学特論	1 後		2	○			
		生体化学検査学演習	2 前		2		○		
		遺伝子検査学特論	1 後		2	○			
遺伝子検査学演習		2 前		2		○			
小計(8科目)		-	0	16	-			-	
特別研究科目	臨床検査学特別研究	2 通		10		○			
	小計(1科目)		-	10	0	-			
合計(27科目)				16	44	-			-

備考欄の※は看護学専攻との合同授業科目

5 修了要件等

専門共通科目 12 単位以上（必修 6 単位、選択 6 単位以上）専門領域科目 8 単位以上（選択した特別研究の属する領域科目から特論 2 単位及び演習 2 単位、さらに他の領域科目も含め 4 単位以上）及び特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を修得する。加えて必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

6 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門共通科目	先端医学論	<p>近年、医学における技術の進歩は目覚ましいものがある。医療の現場に最新の技術が導入された場合、医療従事者として円滑に対応していく必要がある。本講では、注目されている先端医学のトピックス、導入に際しての課題、将来の展望などを学習し、医療現場において先進的医療にも対応できる資質を高めることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式/全 15 回）</p> <p>先端医学総論 5 回 岡田 仁</p> <p>先端医学各論 10 回 古山達雄、奥田 潤、平川栄一郎、樋本尚志、多田達史</p>	<p>教授 古山達雄 教授 奥田 潤 教授 平川栄一郎 教授 樋本尚志 教授 多田達史 教授 岡田 仁</p>
	保健医療福祉論	<p>少子高齢社会において人生の最期まで住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムの構築、さらには制度・分野ごとの関係を超え、地域住民や地域の多様な主体が我がこととして、人と資源が世代や分野を超えて地域を共に創る地域共生社会が求められている。地域包括ケアシステム構築や地域共生社会の実現には、保健・医療・福祉の基盤となる制度や法律、各専門職や地域の役割に対する理解、連携・協働する実践力が求められる。そのため、保健・医療・福祉の基本的な制度や政策、チームとしての連携協働のあり方や基本概念について学修する。実際の活動事例を通して地域課題を検討するとともに、自己の専門職としての役割やあり方を探究する。</p> <p>（オムニバス方式/全 15 回）</p> <p>保健医療福祉論総論 5 回 岡田 仁</p> <p>保健医療福祉論各論 10 回 岡田 仁、岡田麻里</p>	<p>教授 岡田 仁 准教授 岡田麻里</p>
	チーム医療特論	<p>より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを目的に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学習する。さらに、不毛な対立を克服し建設的に対立する信念対立解明アプローチの理論と技法を学び、医療現場における信念対立を解明し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探究する。</p>	<p>教授 多田達史 准教授 森田公美子</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門共通科目	生命・医療倫理論	<p>バイオサイエンス及び医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的あるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶ。事例を用いたグループワーク、討議、ロールプレイ等の手法も用いることで、「正解」を見つけにくい問いの前で、それでも考え続けることが倫理の本質であることを学ぶ。</p>	<p>教授 岡田 仁 講師 大栗聖由 非常勤講師 塩田敦子</p>
	検査総合管理学	<p>科学的根拠に基づく検査管理能力を養うため、検査室運営法、検体の採取からデータ報告に至るまでのリスクの発生とそれを防止するための考え方や対処法について学習する。また、医療体制の変化により、より質の高い医療が求められるようになり、国民の医療への期待は大きい。そのため、医療経済、医療保険制度、地域医療、医療サービスにおける患者の満足度、マーケティング、経営戦略などを通して医療経営の課題と問題解決法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(徳原康哲/7回) 高齢化社会や疾病構造の変化に対応した将来の病院の在り方やチーム医療における臨床検査技師の新しい役割について、医療保険制度および経営戦略等の観点から科学的に考察し、今後求められる臨床検査の管理体制を学ぶ。</p> <p>(多田達史/8回) 検査管理学の概論、検査室と病院組織との関連、検査室の組織と運営方法、精度管理の概論、分析方法の評価、分析状態やデータ出力管理、個人・集団データからのアプローチ方法、検査データの見方と説明、救急時における緊急検査への対応などについて学ぶ。</p>	<p>教授 多田達史 准教授 徳原康哲</p>
	医療情報管理学	<p>医療情報は疾患の予防、診断、治療に不可欠であり、その管理は重要である。また、医療情報システムの発展とともに医療情報の利用範囲も広がりつつある。このような状況の下、電子カルテ等の医療情報を取り扱う重要性や管理方法、そして倫理的配慮を学ぶ。さらに、患者から得られた医療情報の解析法や、臨床研究や新規検査臨床検査法の開発に発展させる方法について学ぶ。</p>	<p>准教授 徳原康哲 講師 太田安彦</p>

科目 区分	授業科目の名称	講座等の内容	担当教員
専 門 共 通 科 目	食理学	<p>生命活動を維持するためには食品を摂取しなければならない。新たな食品の開発が急速に発展するなか、食品に含まれる各栄養素を把握し、食品を選択・摂取することが求められる時代となっている。本講義では、食品に含まれる各栄養素が人体にどのような作用を及ぼすかについて、科学的な根拠から考え、作用機序を学ぶことで食の機能を理解する。さらに、文献検索により栄養素の各分析法を調べ、得られたデータの評価方法について学ぶ。</p>	准教授 徳原康哲 講 師 太田安彦
	検査研究方法論	<p>保健・医療分野の研究方法について基本的な構成を学び、自らが研究課題に対して解決できる能力を養う。具体的には、最初に研究方法の概要（研究計画の立て方、サンプルの収集法、研究の実施法、研究結果の分析法、研究成果のまとめ、資料の記録）を学び、トピックス・研究課題の見つけ方、文献検索法、仮説の立て方、研究デザイン法、データの収集とデータ解析法について修得し、得られた成果を論文として作成する方法や学会発表等で表現できる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全7回)</p> <p>(池亀彰茂/4回) 研究の具体例を紹介し、課題の見つけ方、文献検索、資料の整理、研究目的や仮説の考え方、研究方法の選択の仕方や研究デザインを学ぶとともに、倫理規程や人権問題についての知識を修得する。</p> <p>(多田達史/3回) 研究者として必要なデータ収集と測定及びデータの統計解析の手法、論文の作成方法、学会での発表やスライド作成の方法、論文の投稿や投稿規程、課題の発表方法について学ぶ。</p>	教 授 多田達史 准教授 池亀彰茂

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	生体機能検査学特論	生体機能検査学は、リアルタイムな生体情報を画像や波形で描出する種々の検査法や評価法を学ぶことができ、疾患の早期発見や早期治療に貢献することができる。そのため、循環機能検査、呼吸機能検査、神経生理学的検査、画像検査について基礎的な能力を学ぶことを目的とする。また、種々の検査が遂行できる知識や検査結果の評価法についても学習する。さらには、臨床現場で遭遇する病態に応じて適切な検査法が選択できるよう、最新の病態解析法についても学習する。	講師 大栗聖由
	生体機能検査学演習	まず、特論で学んだ知識をもとに、循環機能検査、呼吸機能検査、神経生理学的検査、画像検査で明らかになる疾患の病態生理を十分理解し、その基盤の上に立ち病態の本質に迫る基礎的研究能力の習得を目指す。そして、国内外の先行研究の文献抄読や研究課題をみつけ、その研究に必要な検査手法、解析法等について理解を深め、演習を通じて臨床に役立つ安全でエビデンスのある臨床的研究能力を自ら導き出せるような能力を養うことを目的とする。	講師 大栗聖由
	病態解析検査学特論	本授業では自己抗体の臨床的意義について理解を深める。まず、自己抗体の産生される機序、自己抗体の測定法やその判定法について理解する。次に、自己抗体は診断的意義のみならず、疾患の活動性や予後、治療効果の予測などを反映することもあり、どのような時に自己抗体を測定すべきかについても理解する。さらに、自己抗体は自己免疫疾患のみならずウイルス性疾患や悪性腫瘍など様々な疾患で検出されており、そのような疾患における自己抗体測定の有用性についても学習する。	教授 樋本尚志
	病態解析検査学演習	「肝疾患における自己抗体の有用性」についての最新の研究論文を抄読することによって、病態解析検査学特論で学習した「自己抗体測定の臨床的意義」についての理解をさらに深めるべく演習を行う。また、今後の研究課題に対して必要な実験的手法や臨床的な解析方法、さらには統計処理などについても、この演習を通じて網羅的に習得する。	教授 樋本尚志
	病理病態検査学特論	病理学は、臨床医学と基礎医学の架け橋となる学問であり、肉眼的変化や顕微鏡で観察される細胞や組織の形態学的変化を捉えることが必要である。そのため、病理・細胞診断学的な基礎的な能力を養うことを目標とする。また、疾病の形態学的変化と生理学的、生化学的な変化を有機的に結合させ、病気の成因やその発生のメカニズム、及び病理病態に関する幅広い知識を修得する。さらには、これらの解析のために必要な形態学的研究方法や分子病理学的な解析方法についても学習する。	教授 平川栄一郎

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目 病態機能検査学領域	病理病態検査学演習	病理病態学演習においては、疾病による細胞や組織、臓器の形態学的変化の解析にとどまらず、腫瘍、特に前癌病変から癌にいたるまでの変化について、分子病理学的、生化学、分子生物学的な手法を用いて解析、研究を行う。また、国内外の研究論文の抄読を行い、腫瘍の発生、発癌について検討し、また病理病態検査の鑑別診断への応用についても理論的、実践的理解を深める。以上の演習を通じて疾病の本質についての理解を深め、病理病態学的に探究する能力を養う。	教授 平川栄一郎
	血液病態検査学特論	血液疾患の成因、病態、病理像（血液、造血組織、細胞学的、分子的）を深く追究理解し、疾病の本態について探求する。また、血液検査学の基礎的検査法のみならず、疾患の診断や治療の指標に直結する特異的な検査法について学習するとともに、検査法の応用例、発展性、先端の検査法技術について学習する。これらの知識をもとに、実践現場における血液疾患の予防、早期発見、治療、病態解析における有用な血液検査法について考察する。	准教授 池亀彰茂
	血液病態検査学演習	特論で学習及び考察した実践現場において有用である検査法について討議し、技術理解を深めるとともに、必要な検査法については実習を行う。また、国内外の血液病学・血液検査学に関連する論文分析を行い、研究の動向や方法を習得する。さらに論文解析から血液検査学領域における問題点を探究し、討議するとともに、検査法の応用方法を習得する。新しい検査法の考案などの臨床指向型研究を進行できる総合的判断能力及び研究者としての資質の養成を目的とする。	准教授 池亀彰茂
	神経生理機能検査学特論	神経系の構成と生理機能について基本的な知識を整理したのちに、代表的な神経精神系の疾患について原因、診断、検査法や治療法についての基本的な事項を学習する。さらにこれらの疾患について、近年明らかになってきた知見、そこで用いられた研究手法や新たな検査法などについて学ぶ。	教授 古山達雄 講師 新美健太
	神経生理機能検査学演習	特論で学習したことを基に、最初に履修者は各疾患についての基本になる総説を抄読して紹介する。その後、各自が興味のある疾患についての最新の知見を報告している文献を検索し抄読する。その過程で、その研究の意義、研究手法、研究の組み立て方などを学習し、自分の研究にどのように取り入れるかなどをレポートにまとめて発表する。これらの演習を通して一般的な研究能力を養う。	教授 古山達雄 講師 新美健太

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門領域科目	病原因子検査学特論	病原微生物による感染症の発症機序や病態解析についての理解を深める。特に感染症の主要な原因となる病原因子の作用機序についての学習を通して、病原因子の本体を探る研究や検査の実態を把握するとともに、新しい検査方法を開発するための基礎的能力を養う。最終的に各論で学習した内容を踏まえて、与えられた課題についてのレポートを作成し、理解を深め、さらに考察する。	教授 奥田 潤 講師 末澤千草
	病原因子検査学演習	感染症を引き起こす病原微生物による様々な病原因子について、その特性や作用機序などを多くの研究論文をもとに学習し、感染症の予防や検査方法の開発につながる知識を深めることを目標として演習を行う。具体的には、配布した研究論文を講読した後、レポート及び口頭試問を行う。さらに、最終的に興味のある研究論文についてまとめを作成し口頭発表を行うことで、発表スライドの作成法や口頭発表の仕方について再確認する。	教授 奥田 潤 講師 末澤千草
	生体防御検査学特論	生体防御システムで重要な自然免疫と獲得免疫に関わる免疫細胞における生体防御機構とエフェクター機能について学習するとともに、免疫関連疾患の原因物質を簡便で的確に診断することが可能な検査法の開発能力を養う。そのため、抗原抗体反応理論、抗体の構造と機能、抗体の分離精製法、標識法など、高感度免疫測定法に関わる内容について理解する。	講師 山崎未来 未定
	生体防御検査学演習	医療はポストゲノム時代を迎え、分子生物学的技術の進歩が病態診断に必要な遺伝子検査を可能にした。生体防御検査においても遺伝子解析は有用であり、その意義を科学的根拠に基づいて理解する必要がある。臨床免疫学領域では、ウイルス感染症の抗原抗体マーカーと核酸検査、HLA 遺伝子型と能動免疫(ワクチン)との関係などを考察することが可能である。ワクチン抗原特異的な免疫応答のメカニズム解析を例にして生体防御反応としての免疫システムを理解する。	講師 山崎未来 未定
	生体化学検査学特論	現在では生活環境、社会生活から受けるさまざまなストレスが原因となり、生体の恒常性が破綻し、各種疾患の原因になっている。また、高齢化等により各種疾患も複雑化し、その病因の解析が要求されるようになった。その中で脂質代謝を取り上げ、脂質代謝の基礎的知識を十分に理解し、動脈硬化性疾患と脂質代謝が病態生理にどのような関わっているかを学ぶ。また酸化・糖化などの変成物質の関連性について理解を深める。さらに動脈硬化と生活習慣や食品との関係について学習する。	教授 多田達史 准教授 徳原康哲 講師 太田安彦

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員	
専門 領域 科目	病因 解析 検査 学 領域	生体化学検査学演習	生体化学検査学演習においては、動脈硬化とリポ蛋白質代謝や糖代謝に関連する異常リポ蛋白質の関係について考察し、糖尿病やメタボリックシンドロームにおける脂質代謝異常症について学習する。また、国内外の糖尿病合併症を含む動脈硬化に関連した文献調査を行い、臨床化学領域における検査法を学習するとともに、その問題点を理解する。さらに、異常リポ蛋白質、糖化蛋白、終末糖化産物 (AGEs) の検出について、研究の視点や分析方法について理解を深め、新規検査法などを考案できるような研究能力の養成を目的とする。	教授 多田達史 准教授 徳原康哲 講師 太田安彦
		遺伝子検査学特論	遺伝子検査を核酸増幅定量検査と遺伝子変異解析検査とに分け、測定原理及び検査法の問題点を理解する。これらの知識をもとに、臨床的有用性の高い遺伝子検査を構築する。また、遺伝子関連検査の諸ガイドラインを理解し、先天異常の遺伝形式に応じた遺伝カウンセリングの手法について学ぶ。	教授 岡田 仁
		遺伝子検査学演習	分子生物学及び細胞遺伝学に必須である遺伝子発現と制御、シグナル伝達、細胞周期、腫瘍のメカニズムについて、学部教育をさらに深めて研究する。	教授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	臨床検査学特別研究	病態機能検査学領域科目（生体機能検査学、病態解析検査学、病理病態検査学、血液病態検査学）又は病因解析検査学領域科目（病原因子検査学、生体防御検査学、生体化学検査学、遺伝子検査学）の中から希望する研究科目を選択し、当該科目における研究課題の解決方法等について、担当教員の指導のもと修士論文の作成に向けて研究を行う。	
	病態機能検査学領域	SLE などの自己免疫疾患でメタボリックシンドロームやインスリン抵抗性の頻度が高かったり、逆に非アルコール性脂肪肝炎(NASH) といった生活習慣病患者の血清から自己抗体が検出されたり、自己免疫現象と代謝異常との関連がにわかに注目を浴びている。また、NASH 患者においては活性化された脂肪細胞から B lymphocyte activating factor (BAFF) の産生が促進されることも最近報告されている。今回、NASH 患者における自己免疫現象とインスリン抵抗性との関連に着目し、客観的に評価できる血清パラメーターを検索していく。	教授 樋本尚志
		発癌機構について、形態学的、生化学的、分子生物学的変化を含めた分子病理学的手法を用いて解析していく。人体病理材料を用いる場合は、免疫組織化学、免疫細胞化学や Real-time PCR 等の分子病理学的手法を用いて、病的状態における組織、細胞の形態学的変化や分子レベルでの変化について観察を行い、発癌のステップについての解析を行い研究する。また、病理組織学的な癌の早期診断や鑑別診断への応用についても探求する。以上の特別研究を通して、病理病態学的な知識や解析方法を修得し、その理論的な構築をはかり病理病態検査学における研究能力を養う。	教授 平川栄一郎
		臨床血液検査学分野における実践的な文献検討をもとに、明確にしようとする個々の課題について、研究を行い、新たな知見を論文にする能力を養う。 主として担当できる分野は、(1)血液細胞内外の抗原発現検索による造血器腫瘍診断の応用研究、(2)白血球機能の基礎的臨床研究、(3)サイトカイン等による血球の増殖と分化の制御・遺伝子発現、(4)血小板の活性化とその検査法応用、(5)検査血液学の教育方法に関する研究などである。	准教授 池亀彰茂
		神経疾患に対する脳波検査や神経伝導検査および誘発脳波を用いた早期発見や早期診断を目的とした解析を行う。脳波検査では関連病院で記録されたてんかん患者や神経疾患患者のデータを用いて、コンピュータを用いた脳波解析を行う。また、神経伝導検査や誘発脳波については、超音波検査や筋電計を併用した神経疾患の病態解析を行い、加えて関連病院における手術前後での形態および神経機能の変化について解析を行う。以上の特別研究を通して、生理機能検査法を用いた神経生理学における研究能力を養う。	講師 大栗聖由
		寿命を決定する因子について近年多くのことがわかってきた。その中のひとつであるインシュリンシグナル経路は進化的に保存性が高い。この経路上にある転写因子 FOXO ファミリーの生理機能について検討する。特に血管系と神経系での役割について、欠損マウスを用いた形態学的、生化学的、分子生物学的な手法により明らかにする。以上の特別研究を通して基礎的な研究能力を養う。	教授 古山達雄

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
臨床検査学特別研究	病態機能検査学 領域	<p>体液を循環させて生命の恒常性を維持するためには心臓及び血管・リンパ管が正常に発生し維持される必要がある。このように循環系が秩序正しく発生し維持される分子機序について、形態学的な分析を中心に分子生物学的・生化学的手法を取り入れて研究を行う。特に遺伝子組換えマウスを利用した血管・リンパ管の新生・維持に関する分子メカニズムの解明が主たる研究テーマである。以上の特別研究を通して、生命科学分野における基礎的な研究能力を養う。</p>	講師 新美健太
	病因解析検査学 領域	<p>感染症を引き起こす病原細菌は病原性を発現するために必要なさまざまな病原因子や、予防や治療として用いられる消毒薬や抗菌薬に対する耐性因子をもっている。そのなかで、研究対象として、病原細菌が針状の III 型分泌装置を用いて宿主細胞に直接注入するエフェクタータンパク質や病原細菌が菌体外に分泌する外毒素などの病原因子、あるいは、消毒薬や抗菌薬に対する耐性に着目し、現在その作用機序等の実態がまだ解明されていないものにつき、研究を進める。そのような研究活動を通じて、病原因子や薬剤耐性に関する基礎的研究能力を養うとともに、感染症検査、予防、治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。</p>	教授 奥田 潤
		<p>ヒトでは新生児期のみ生理的黄疸を認め、それを逸脱する病的黄疸では核黄疸（ビリルビン脳症）が発症することがある。早産児では医療技術の進んだ現在でも発症予防が困難とされており、この問題を解決するための新生児黄疸管理に関する基礎的研究を進める。ビリルビンの光化学反応や抗酸化作用などに関して生化学的、分子生物学的手法を用い研究活動を行い、これらの研究活動により病態生理の理解を深め、論理的な思考力や基礎的研究能力を養う。</p>	教授 岡田 仁
		<p>免疫とは、病原微生物などによる外からの攻撃や、がん細胞などによる内からの破綻から生体を守る機能である。免疫のはたらきを最も効果的に医療に活用し生まれたのがワクチンによる能動免疫法である。B 型肝炎ウイルス（HBV）感染症の予防のため、特に医療従事者に対し、HB ワクチン接種が行われている。しかし、免疫機能の個人差のため、HBV の中和抗体である HBs 抗体産生が十分でない場合が存在する。このワクチン免疫不応答の原因解明を目的に研究を進める。また、B 型肝炎の診断や病態把握には HBV 抗原抗体マーカーや核酸検査が応用されている。これら HBV 関連検査データの詳細な解析や評価、さらに、ワクチン免疫不応答予測検査等、新しい HBV 関連検査の確立をめざす。</p>	講師 山崎未来 未定
		<p>近年、レムナントリポ蛋白などの動脈硬化惹起性リポ蛋白質が注目されている。特に粒子径が 25.5nm 未満の small dense LDL は高中性脂肪血症との関連性が強く、大型の異常 VLDL 代謝が注目されている。一方、リポ蛋白代謝と血小板などの血液細胞機能との関係も研究されてきている。臨床化学検査学領域における分析技術を用いて、糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する疾患の予防・早期発見、治療につながる新規臨床検査項目に関する研究を行い、分析技術的研究開発を目指す。</p>	教授 多田達史

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
	臨床検査学特別研究 病因解析検査学 領域	<p>人体において蛋白質やアミノ酸は必要不可欠な構成成分であり、様々な疾患において体内の濃度が変化する。また、種々のアミノ酸代謝経路の異常により血中や尿中のアミノ酸濃度が著しく上昇し、中枢神経系等に重大な障害を与えるため、アミノ酸の代謝異常を早期に発見し治療することが重要である。本研究では、体内の各蛋白質やアミノ酸の変動を早期に発見することを目的とし、生化学実験および分子生物学実験により、蛋白質やアミノ酸を検出・測定する新規臨床検査法の開発を目指す。</p>	准教授 徳原康哲
		<p>病原微生物は生体に侵入後、定着、増殖、宿主細胞内への侵入・増殖などの過程において、様々な病原因子により病原性を発揮する。例えば、日和見感染起因菌の一つである緑膿菌は、べん毛、IV型線毛、外毒素、エフェクター分子などの病原因子をもつ。本特別研究では、病原微生物がもつまだ詳細な作用機序が明らかとなっていない病原因子に着目し、形態学的手法、生化学的手法、分子生物学的手法などを用いて、作用機序の解析を進めることで、新たな予防法や検査法に繋がる遺伝子や蛋白質を探索する。</p>	講師 末澤千草
		<p>近年の糖尿病治療の選択肢の1つに、DPP-4阻害剤による投薬治療が登場した。この阻害剤は可溶性 DPP-4 の値を下げ、インクレチンである GIP、GLP-1 などの寿命を延ばし、インスリン分泌を促す効果がある。また、DPP-4 は糖尿病以外の疾患でも増加することが知られている。しかしながらその機序についてはいまだ不明な点が多い。本特別研究では、DPP-4 分泌の機序を明らかにし、DPP-4 増加疾患の治療の一助となるシステムの開発を目指す。</p>	講師 太田安彦

博士後期課程

目 次

I	募集人員	1
II	選抜区分	1
III	出願資格	1
IV	事前相談	2
V	出願資格審査	2
VI	出願手続	3
VII	入学願書等の記入要領	6
VIII	入学願書等の書類	7
IX	選抜方法等	8
X	合格発表	10
XI	入学手続等	11
XII	ホームページ	12
XIII	問い合わせ先	13

保健医療学研究科

I	基本理念・目的	14
II	アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	14
III	博士後期課程(臨床検査学専攻)の概要	15
1	専攻の名称及び構成	15
2	学位の名称	15
3	博士後期課程における教育研究	15
(1)	教育理念・目的	15
(2)	教育課程の特色	16
(3)	研究の特色	17
4	授業科目一覧	19
5	修了要件等	19
6	授業科目の概要	20

入学試験会場案内図	裏表紙
-----------	-----

I 募集人員

研究科名	専攻名	募集人員
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	2人（社会人選抜を含む）

II 選抜区分

「一般選抜」及び「社会人選抜」を行います。ただし、出願できるのはいずれか一方であり、出願後に選抜区分を変更することはできません。

III 出願資格

1 一般選抜

出願できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者及び2024（令和6）年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2024（令和6）年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2024（令和6）年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2024（令和6）年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2024（令和6）年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - ア 我が国の大学を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本大学院研究科において、当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - イ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育の16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、2024（令和6）年3月31日において24歳に達してい

る者

※ 出願資格(8)により出願を希望する者は、出願前に個別の出願資格審査が必要です(「V 出願資格審査」を参照してください)。

2 社会人選抜

社会人選抜の出願者は、「1 一般選抜の出願資格」のいずれかに該当し、医療・保健・福祉施設、教育機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験(通算可)を有する者(2024(令和6)年3月31日までに該当する見込みの者を含む)。

注 大学院設置基準に基づく授業時間などの特別措置

社会人の方が働きながら学べるよう、大学院設置基準第14条の規定により、必要に応じて、夜間、土曜その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行う途を設けています。

また、申し出により標準修業年限(3年)を超える一定期間の計画的な履修を認めることも可能としていますので、希望される方は、次の「IV 事前相談」における相談の際に、あわせて教員にご相談ください。

IV 事前相談

出願を希望する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と相談することが必要です。

希望する特別研究の専門領域と教員の選択に当たっては、「博士後期課程 臨床検査学専攻の研究領域における研究概要と研究指導教員」(17~18ページ)及び「講義等の内容」(23~30ページ)を参照してください。

事前相談の申し込みは、2023(令和5)年8月14日(月)~9月25日(月)までに、香川県立保健医療大学事務局教務・学生担当(TEL087-870-1212)まで連絡し、希望する教員と事前相談を行ってください。なお、この申し込みの受付時間は、午前9時から午後5時まで(土曜、日曜及び祝日を除く)とします。

また、次の「V 出願資格審査」を希望する者は、当該申請前まで(2023(令和5)年9月25日(月)まで)に事前相談をすませしておく必要がありますので、留意してください。

V 出願資格審査

一般選抜出願資格(8)(社会人選抜で一般選抜出願資格(8)に該当する者を含む)で出願を希望する者は、あらかじめ、出願資格の審査を行いますので、「2 提出書類」を封筒(封筒表面に「保健医療学研究科出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください)に入れ、「書留郵便」で郵送又は持参してください。

1 申請期間

2023(令和5)年9月13日(水)から9月25日(月)まで

- ・郵送する場合 9月25日(月)午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

2 提出書類

- (1) 出願資格審査申請書（本学所定様式）
- (2) 最終出身学校等の卒業（修了）又は卒業（修了）見込証明書
- (3) 最終出身学校等の成績証明書又は調査書等（出身学校等の長が作成し、厳封したもの）
- (4) 臨床検査技師、薬剤師等の国家資格者としての実務経験を有する者は、その免許証の写し（A4サイズに縮小のこと）及び在職期間証明書（本学所定様式）
- (5) 返信用封筒（長形3号封筒（120mm×235mm）の表面に申請者の郵便番号、住所及び氏名を明記し、返信用切手（434円（簡易書留料金含む。））を貼付したもの）

※1 上記書類の作成に際しては、記入要領及び「VI-3 出願書類」の摘要欄を参照してください。

※2 申請書類受理後は、提出された書類は、理由のいかんを問わず返還しません。

※3 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。

3 提出先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当（TEL 087-870-1212）

4 審査結果の通知

出願資格の審査結果は、2023（令和5）年10月5日（木）に本人あてに郵送で通知します。2023（令和5）年10月10日（火）までに届かない場合は、前記「3 提出先」に電話で照会してください。なお、認定された方は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

VI 出願手続

1 出願期間

2023（令和5）年10月11日（水）～10月18日（水）まで

- ・郵送する場合 10月18日（水）午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。
ただし、土曜、日曜及び祝日は受け付けません。

2 出願方法

志願者は、出願書類を一括して本学所定の出願書類提出用封筒に入れ、「書留郵便」で郵送又は持参してください。

3 出願書類

出 願 書 類	選抜区分		摘 要
	一 般	社 会 人	
入学願書	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入してください。
写真票・受験票	◎	◎	(本学所定様式) 記入要領を参照して、必要事項を記入し、縦4 cm×横3 cmの同じ写真(正面上半身無帽、背景なし、出願前6か月以内に撮影したもの、カラー・白黒どちらでも可)の裏面に氏名を明記し、所定の欄(2か所)に貼付してください。
卒業・修了 (見込) 証明書	◎	◎	最終出身学校等の長が作成したものを提出してください。なお、本学を修了見込の者は提出する必要はありません。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
成績証明書	◎	◎	最終出身学校等の長が作成し、厳封したものを提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
修士の学位等 授与(見込) 証明書等	○	○	「Ⅲ 出願資格」の1-(2)で出願する者が提出してください。 学位授与機関が発行した授与(見込) 証明書を提出してください。
志願理由書	◎	◎	(本学所定様式) 本研究科への志望動機を記述してください。
修士論文要旨	○	○	修士論文がある場合は、修士論文の要旨を提出してください。 (A4判用紙に横書きで2,000字以内にまとめたもの)
修士学位取得後の 研究業績調書	○	○	修士の学位取得後、その成果をどのように公表してきたのか、どのような研究に発展させてきたのか等について記述して提出してください。 (A4判用紙1枚程度に横書きでまとめたもの)
研究計画案	◎	◎	研究計画の概要を提出してください。 (A4判用紙に横書きで1,200字程度にまとめたもの)
在職期間証明書	○	○	(本学所定様式) 「Ⅲ 出願資格」の1-(8)で出願しようとする者で臨床検査技師、薬剤師等の免許を有しているもの又は社会人選抜で出願しようとする者が提出してください。 ※ 「Ⅴ 出願資格審査」で提出した場合は不要です。

出 願 書 類	選 抜 区 分		摘 要
	一 般	社 会 人	
承諾書	○	○	(本学所定様式) 在職のまま出願しようとする者は、所属長による承諾書を提出してください。
免許証の写し	○	○	社会人選抜で出願しようとする者又は「Ⅲ 出願資格」の1-(8)で出願しようとする者で臨床検査技師、薬剤師等の免許を有しているものが提出してください。 ※ 臨床検査技師、薬剤師等の国家資格に係る免許証の写しをA4サイズに縮小してください。 ※ 上記のうち、「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。
入学選考料	◎	◎	入学選考料は、30,000 円です。 30,000 円の普通為替証書を出願書類と併せて送付してください。 ※ 普通為替証書には何も記入しないでください。
証券送付書	◎	◎	(本学所定様式) 記入方法等は、本用紙を参照してください。
受験票返送用封筒	◎	◎	(本学所定様式) 住所、氏名、郵便番号を記入し、切手 434 円分を貼付して提出してください。手続き完了後、受験票を返送します。
<p>※1 ◎印は全員必須、○印は該当する者のみ提出する書類です。</p> <p>※2 外国語で作成された書類には、必ず日本語訳を添付してください。それが困難な場合は、ご相談ください。</p> <p>※3 郵便料金の改定が行われた場合は、新料金の切手を貼付してください。</p> <p>※4 婚姻等による改姓により、現在の氏名と卒業証明書、免許証等の氏名が相違する場合は、戸籍抄本を提出してください。ただし、「V 出願資格審査」で提出した場合は不要です。</p> <p>※5 日本国籍を有しない者は、入学に際して、別途提出いただく書類があります。</p>			

4 出願先

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当 (TEL 087-870-1212)

5 出願上の注意

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理できませんので、十分注意してください。
- (2) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 出願書類及び入学選考料は、出願書類受理後、理由のいかんを問わず返還しません。
- (4) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので、注意してください。
- (5) 出願手続を完了した者には、受験票を郵送します。
なお、2023（令和5）年10月24日（火）になっても受験票が届かない場合は、前記「4 出願先」に電話で照会してください。
- (6) 障がい等を有する等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者は、2023（令和5）年9月25日（月）までに、あらかじめ前記「4 出願先」に連絡し、相談してください。
- (7) 出願書類から取得した個人情報、入学試験に係る資料としてのみ利用し、取得した個人情報を第三者に提供することはありません。

VII 入学願書等の記入要領

◎ 共通事項

- 1 *印の欄には、記入しないこと。
- 2 *印の欄を除き、各書類の注意事項等にそって必要事項を記入し、又は該当項目に○をつけること。
- 3 記入に当たっては、黒色のペン又はボールペンを使用し、楷書ではっきりと記入すること。

○ 入学願書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「出願資格」欄は、出身学校等の名称及びその卒業等年月を記入し、事前の出願資格審査で認定を受けた者は、その認定番号を記入すること。
- 4 臨床検査技師、薬剤師等の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。
- 5 「現住所」及び「合格通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。
なお、「合格通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。
- 6 裏面の「履歴書」欄には、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。
- 7 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

○ 写真票・受験票

- 1 それぞれ所定の欄に縦4cm×横3cmの同一写真を貼付すること。
- 2 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー・白黒のどちらでも可、出願前6か月以内に撮影したものであること。
- 3 写真の裏面に、氏名を明記しておくこと。
- 4 記入内容が、入学願書の記載内容と一致するよう確認すること。
- 5 その他、受験票裏面の注意事項を参照のこと。

※ 入学願書・写真票・受験票は切り離さないで提出すること。

○ 出願資格審査申請書

- 1 「フリガナ」は必ず記入すること。
- 2 生年月日等は西暦で記入すること。
- 3 「履歴事項」欄の「学歴」及び「実務経験(職歴)」は、高等学校卒業後の履歴をすべて記入すること。なお、欄が不足する場合は、別紙として添付すること。

また、臨床検査技師、薬剤師の免許を有している者は、「免許」欄に取得年月日及び免許番号を記入すること。

- 4 「現住所」及び「審査結果通知先」欄には、都道府県名から正確に記入し、アパート名、号室等も省略せずに記入するとともに、郵便番号を必ず記入すること。また、提出後に変更があった場合は、直ちに連絡すること。

なお、「審査結果通知先」が「現住所」と同じ場合は、「同上」と記入すること。

- 5 誤って記入した場合は、該当箇所を二重線で消し、その上に訂正印を押すこと。

上記の他、各書類に記載している注意事項に従って記入すること。

VIII 入学願書等の書類（別添封筒に在中）

1 出願書類

- (1) 入学願書・写真票・受験票
- (2) 志願理由書
- (3) 在職期間証明書
- (4) 承諾書
- (5) 証券送付書
- (6) 受験票返送用封筒
- (7) 出願書類提出用封筒

2 出願資格審査書類

- (1) 出願資格審査申請書

Ⅹ 選抜方法等

入学者の選抜は、学力試験（専門科目、英語）及び面接の結果並びに出願書類等を総合して、総合得点で可否を判定します。

なお、総合得点と同点の場合は、専門科目の点数が高い者を優先します。

1 試験科目等

科目等	配点	備考
専門科目	200	専攻に関する専門的な問題
英語	100	専攻に関する専門的な問題 *英和辞書1冊の持込可（電子辞書は不可）
面接	100	個人面接

※ 配点は、一般選抜と社会人選抜では異なります。

区分	科目等	配点
一般選抜	専門科目	200
	英語	100
	面接	100
	合計	400
社会人選抜	専門科目	225
	英語	75
	面接	100
	合計	400

※ 社会人選抜は、一般選抜と同様に、専門科目は200点満点、英語は100点満点で採点し、専門科目を1.125倍とし、英語を0.75倍とします。

2 試験日程（一般選抜・社会人選抜共通）

試験日	試験科目等	時間
2023（令和5）年 10月28日（土）	受験者集合	9:00
	注意事項等連絡	9:00 ～ 9:15
	専門科目	9:20 ～ 10:50
	英語	11:10 ～ 12:10
	昼食	12:10 ～ 13:00
	受験者集合	13:00
	面接	13:10 ～

3 受験上の注意事項

(1) 入学試験当日は、午前9時までに試験室に入り、受験票を机の上に置いて着席してください。

なお、受験票を忘れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。

- (2) 集合時間に遅刻した場合は、学力試験開始後 30 分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長及び面接試験における遅刻は認めません。
なお、面接は受験者ごとに開始時間が異なりますので、注意してください。
また、学力試験を受験しなかった者は、面接を受けることはできません。
- (3) 試験会場では、監督者の指示に従ってください。
- (4) 机の上には、受験票・HB又はBの鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（計時機能だけのもの）・英和辞書 1 冊（英語の試験のみ（電子辞書の持ち込みは不可））以外のものは置かないでください。
- (5) 携帯電話、スマートフォン等は、電源を切ってカバンの中にしまっておいてください。
- (6) 昼食（飲み物を含む）は各自で準備してください。校内の自動販売機は利用できません。

4 試験会場

香川県立保健医療大学

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

※1 試験会場は、裏表紙の**入学試験会場案内図**を参照してください。

※2 試験会場の下見はできますが、建物内への立入りはできません。

※3 合否電報・電話の取扱い等の勧誘をする者があっても、**本学とは一切関係がありません。**

X 合格発表

1 発表日・発表方法

2023（令和5）年11月2日（木）午前9時に、香川県立保健医療大学 アプローチ広場掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には、文書で通知します。

また、本学のホームページ（<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>）上においても、合格者受験番号を掲載します（同日午前9時過ぎの予定）。

なお、ホームページ掲載は、本学が情報提供の一環として行うものであり、公式の合格発表は、本学掲示板、合格通知書で行います。

2 追加合格

入学手続き者が入学定員に満たなかった場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格は、2023（令和5）年11月10日（金）午後5時以降、該当者あてに入学願書に記載された連絡先に電話で通知します。この電話連絡は、2023（令和5）年11月13日（月）までに行うよう配慮しますので、この期間は、入学願書の連絡先に所在する等、本人と直接連絡が取れるようにしておいてください。

なお、追加合格者の入学手続等については、追加合格通知時に指示します。

3 その他

- (1) 電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。
- (2) 合否以外の受験に関する問い合わせは、志願者本人が行ってください。
- (3) 香川県個人情報保護条例に基づく入学試験成績の簡易開示について
受験者本人の請求に基づき、次の要領により開示します。

- ・請求期間

2023（令和5）年11月2日（木）～2023（令和5）年12月4日（月）（土曜、日曜及び祝日を除く。）

- ・開示内容

科目別得点及び総合得点

- ・請求方法

受験者本人が、本学事務局窓口の本学の受験票を持参のうえ、請求してください。
（受付時間は、9：00～12：00 及び13：00～17：00 です。）

XI 入学手続等

1 入学手続の期間

2023（令和5）年11月6日（月）から11月10日（金）まで

- ・郵送する場合 11月10日（金）午後5時必着とします。
- ・持参する場合 受付時間は午前9時から午後5時までとします。

2 手続場所

〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当（TEL 087-870-1212）

3 入学手続

- (1) 上記2の場所へ、「4 提出書類等」を一括し、書留扱いの郵便又は直接持参により提出してください。
- (2) 上記1の期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (3) 入学手続を行うのは、代理人でも差し支えありません。
- (4) **入学金は、納入後、理由のいかんを問わず返還しません。**
- (5) 詳細については、合格通知時に通知します。

4 提出書類等

- (1) 誓約書(本学所定様式)
- (2) 卒業(修了)証明書(卒業(修了)見込みで受験した者は、卒業(修了)証明書を別途指示する日までに提出すること。)
- (3) 学位授与証明書(学位授与見込みで受験した者は、別途指示する日までに提出すること。)
- (4) 入学金の領収書のコピー
- (5) 縦4cm×横3cmの同じ写真2枚(正面上半身無帽、背景なし、最近6か月以内に撮影したもの、カラー、裏面に専攻名・氏名を明記したもの)
- (6) ア 本人が令和5年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
本人の住民票（マイナンバーの表示がないもの）
イ 本人の配偶者又は一親等の親族が令和5年4月1日以前から香川県内に住所を有している場合
配偶者又は一親等の親族の住民票（マイナンバーの表示がないもの）及び本人との関係を証明する戸籍抄本

5 入学金（予定金額）

- (1) 県内者 197,400円
- (2) 上記以外の者 366,600円

※ 「県内者」とは、2023（令和5）年4月1日以前から引き続き香川県内に住所を有する者並びにその配偶者及び一親等の親族をいいます。

6 授業料（予定金額）

- (1) 年額 535,800 円
- (2) 各年度に係る授業料は、前期及び後期の2学期に区分して納付するものとし、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とします。
 - ① 前期納付期限 4月末日 (267,900 円)
 - ② 後期納付期限 10月末日 (267,900 円)
- (3) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

7 授業料等減免制度

経済的理由その他やむを得ない事情により授業料等の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認めた学生に対し、授業料等の全部又は一部を免除する制度等があります。

8 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金には、第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）の制度があります。

- ・ 第一種奨学金

特に優れた学生で経済的理由により著しく修学に困難がある者

貸与月額（2023（令和5）年度） 80,000 円、122,000 円のうち希望額を選択

- ・ 第二種奨学金

優れた学生で経済的理由により修学に困難がある者

貸与月額（2023（令和5）年度） 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、150,000 円のうち希望額を選択

※ 詳細については、独立行政法人日本学生支援機構ホームページ(<http://www.jasso.go.jp/>)を確認ください。

9 その他の必要経費等

入学後には、教科書、教材等に係る経費及び後援会費等が別途必要になります。

後援会費については次のとおりです。

- ・ 年会費 20,000 円
- ・ 教材用経費等 3年間分 40,000 円（予定）
- ・ 納付期限 4月末日（年会費は、2年次以降も必要です。）

なお、学生は傷害事故及び賠償事故等についての保険に加入しますが、当該保険料は後援会費の中から負担します。

10 その他

学生寮はありません。

XII ホームページ

大学案内や入試情報を掲載したホームページを開設しています。

URL <https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>

XIII 問い合わせ先

香川県立保健医療大学事務局 教務・学生担当
〒761-0123

香川県高松市牟礼町原 281 番地 1

TEL 087-870-1212

Fax 087-870-1202

I 保健医療学研究科の基本理念・目的

人々の健康と自立の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人を育成する。また、保健・医療・福祉が連携した質の高い総合的サービスを提供し、高度な専門知識を持ち、新規かつ独創的な研究成果を発信する研究能力を持つ教育者・研究者を育成することにより、地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与する。

II アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

1 アドミッションポリシー

本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻では、基本理念・目的を達成するため、次のような資質を備えた人を求めています。

- (1) 臨床検査学の高度な専門知識と科学的検証能力の獲得に強い意欲を有する人
- (2) 臨床検査学領域における問題解決能力を備え、独創的な技術基盤の構築に向け強い意欲を有する人
- (3) 基本的な英語力を更に高め、国際専門誌の読解力や投稿への強い意欲を有する人
- (4) 臨床検査学領域における教育者・研究者を目指す人

2 カリキュラムポリシー

保健医療学研究科の教育研究理念、臨床検査学専攻の教育目的に則って、臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究の深化と発展を目指し、さらにこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

臨床検査学専攻は、病態機能検査学及び病因解析検査学の2領域で構成する。

「専門共通科目」、「専門科目」と「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で構成し、「専門共通科目」は、1年次の前期に、臨床検査に関する幅広い研究テーマの研究課程における研究方法論を学修する1科目（「臨床検査学研究方法論」）を必修科目として、「専門科目」は、後期に高度医療専門職に必要とされる能力の獲得を目指し研究領域の教育研究について学修する4科目を選択科目として配置する。選択科目として、病態機能検査学領域では「病理病態検査技術論」と「神経生理機能検査技術論」の2科目を、病因解析検査学領域では「病原因子解析検査技術論」と「遺伝子検査技術論」の2科目をそれぞれ配置する。「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上の計4単位以上の修得とする。さらに個々の研究テーマについて独創的な視点から、研究仮説及び計画の立案、実験・解析・考察、仮説の立証を通して学位論文を完成させる。「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、3科目6単位の必修科目として配置する。

- (1) 「臨床検査学研究方法論」は、臨床検査に関する幅広い視野を有する教育者・研究者を育成するために、臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、仮説の立案から仮説の科学的な検証に至るまでの研究課程における研究方法論について学修する。
- (2) 「病理病態検査技術論」は、消化器癌や乳癌等における癌の分子病理細胞診断に必要な技術と知識を深め、細胞接着因子の発現と上皮間葉転換による癌の浸潤、転移、悪性度に関する分子機構の解析について学修する。
- (3) 「神経生理機能検査技術論」は、神経変性疾患における活性酸素の役割や天然化

学物質の生体内情報伝達機構への影響とその作用機序について学修する。

- (4) 「病原因子解析検査技術論」は、細菌感染症に対して抗菌薬を用いない全く新しい治療法の開発に繋げるための宿主-病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について学修する。
- (5) 「遺伝子検査技術論」は、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、効率的な遺伝子検査の開発や遺伝子情報に関する情報リテラシーについて学修する。
- (6) 「臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、開講は通年、1年次はⅠ、2年次はⅡ、3年次はⅢを配置し、それぞれ研究過程並びに博士論文作成過程の進度別に明示した3段階の到達水準を達成して進む順序性を設定する。満たない場合は、学修期間は4年、5年と延長する研究指導体制とする。
- (7) 専門的な研究を深化させるための「学術セミナー」を各年次に実施する。「学術セミナー」では、院生が特別研究や博士論文作成過程での課題を発表し、院生間並びに教員と院生間において相互に討論を重ね、多様な観点からの専門的な研究並びに学際的な観点からの研究の深化を図ることを目的とする。また、特色として、専門分野における豊かな学識を有する者を招聘しグローバルな視点から、教育・研究への動機づけが得られる教育研修を企画し、多様な観点から専門的な研究指導と学際的な研究指導が受けられる体制とする。

3 ディプロマポリシー

修了要件となる単位を修得するとともに、必要な研究指導を計画的に受けた上で、主論文（1編）を英文で作成し、査読制度のある国際又は全国学会誌に投稿、査読を経て単著又は共著筆頭の原著として発表する（印刷中の論文については、その旨記入し、アクセプトされたことが分かる証明書を添付する）。なお、主論文に関連する副論文（申請者が筆頭著者・共著者に入っている論文）の添付が望ましい。論文審査及び最終試験に合格し、下記の条件をすべて満たす者に臨床検査学の博士学位を授与する。

- (1) 臨床検査学領域における問題を発見し、解決に導く能力を有し、自ら研究仮説の立案、研究の遂行、仮説の実証ができること
- (2) 自らの研究について、社会への説明能力があり、国際又は全国学会誌に研究成果を発表できること

Ⅲ 臨床検査学専攻の概要

1 専攻の名称及び構成

研究科名	専攻名	領域名
保健医療学研究科	臨床検査学専攻	病態機能検査学領域
		病因解析検査学領域

2 学位の名称

博士(臨床検査学)

3 博士後期課程における教育研究

(1) 教育目的

臨床検査学の学術的基盤に基づいた高度な専門性と学際性とのバランスを図り、研究領域における教育・研究・実践の深化と発展を目指し、更にこれを科学的に究めて新規かつ独創的な研究成果を発信できる人材、すなわち、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材を育成するため、以下の能力を修得することを目的とする。

- ① これまでに構築されてきた臨床検査学の学術的基盤を背景に、新しい臨床検査法や機器・試薬の開発など、臨床検査学の更なる発展に向けて国際的視野から貢献する能力を修得する。
- ② 臨床検査に関する幅広い視野を有するとともに、保健医療分野において総合的な判断力と遂行力を備え、組織の発展・変革を推進する能力を修得する。
- ③ 地域に先駆的・創造的研究成果を積極的に公開し、県民の健康増進、疾病予防等に貢献できる能力を修得する。
- ④ 臨床検査学に関連する学問領域の教育者・研究者や医療界のみならず産業界の研究者との学術交流を深め、広い視野から見据えた臨床検査学の学術的研究に参画できる能力を修得する。

(2) 教育課程の特色

博士前期課程は、「病態機能検査学」と「病因解析検査学」の2領域からなり、人々の「健康と自立」の支援を基本理念とした高度専門職業人の養成を教育目標としている。博士後期課程では、以上のような博士前期課程における基本理念を発展的に深化、継承し、臨床検査学の高度な専門的能力と広範な専門知識、更に科学的検証能力を備えた人材である高度医療専門職を育成するために、教育研究の柱は「病態機能検査学領域」と「病因解析検査学領域」の2領域とする。

(3) 研究の特色

地域の保健医療の質向上、人々の健康増進、ひいては、健康長寿社会の推進や次世代育成支援に寄与できる新規かつ独創的な研究成果を創出するため、以下のような特色を持った2つの研究領域とする。それぞれの研究領域の研究対象として、病態機能検査学領域では、①さまざまな種類のがんに関する発がんメカニズム解明と病理組織検査や細胞診検査への応用、②さまざまな精神疾患の原因となる海馬での神経新生過程の解明を目指した個体から細胞レベルの組織学的、生化学的研究を含む。病因解析検査学領域では、①細菌感染症の感染メカニズム解明と新たな感染防止策の考案、②様々な疾患の分子病態の解明に基づいた遺伝子関連検査法の問題点とその解決に向けた研究を含む。

臨床検査学専攻の研究領域における研究概要と研究指導教員

領域	専門科目	研究概要	研究指導教員
病態機能検査学	病理病態検査技術論	がん死亡率の上位を占める肺癌、胃癌、大腸癌、乳癌等における遺伝子解析及び蛋白質の発現解析とがんの組織型やがんの浸潤、転移、予後などの臨床病理学的因子との関連を解明し、病理組織検査や細胞診検査への応用を追究する。病理組織材料や細胞診材料、培養細胞を用いて、がんにおける claudin family 等の細胞接着因子の発現や EGFR、HER2、PPAR 等の遺伝子・蛋白質レベルでの発現を解析し、治療法の選択、予後の推定に役立つ因子の探索、解明を行う。さらに、病理組織検査や細胞診検査における補助診断法の開発や技術の展開に繋げ、病理病態検査の学術的発展に寄与できる研究能力を獲得する。	教授 平川栄一郎
	神経生理機能検査技術論	成人において海馬や側脳室周囲において神経新生が起こっていることが明らかになり、その異常が様々な精神疾患の原因として示唆されている。正常な神経新生には神経幹細胞が生涯にわたって維持されることが必須であり、それには多くの因子が関与している。ここでは寿命関連転写因子 FOXO1 およびその転写調節する遺伝子の神経新生過程における機能を調べる。動物モデルを用いた組織学的解析、さらに神経幹細胞を取り出し、様々な生化学的、分子生物学的な手法を用いて細胞レベルでの解析を行っていく。これらを通して将来の研究に必要な展開能力や研究手法の習得を目指す。	教授 古山 達雄

領域	専門 科目	研究概要	研究指導教員
病 因 解 析 検 査 学	病 原 因 子 解 析 検 査 技 術 論	<p>がん患者などの免疫低下宿主に対する緑膿菌などの日和見感染菌による致死性の高い腸管経由の内因性血液感染を防ぐ新たな防止策の考案を目指す。腸管上皮細胞層透過活性を示した緑膿菌について、分子生物学や細胞生物学の最先端の研究手法やカイコ等、無脊椎動物を用いた動物実験系を駆使して、どのような機構で本菌が腸管上皮細胞層から血液へトランスロケーションするのかを解明する。さらに、本菌のトランスロケーションに関わる遺伝子やタンパク質が特定されれば、それらの機能を阻害するような化合物を探索し、緑膿菌による腸管経由の内因性血液感染の新たな防止策の考案に繋げていく。</p>	教授 奥田 潤
	遺 伝 子 検 査 技 術 論	<p>遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識を更に深め、実践に直結したグローバルスタンダードな知識と技術、さらに遺伝子情報に関する情報リテラシーの確立を目指す。近年、様々な疾患の分子病態が解明され、その成果に基づき、遺伝子関連検査法が開発され、診断や予防への応用が行われている。今後、新しい検査法の開発などが期待される一方で、遺伝子関連検査は複雑なプロセスで実施され、不慣れな医療従事者も多いことから、結果に対し総合的な解釈を行い診断しなくてはならない。遺伝子検査学として現在の問題点の把握、研究で明確にすべきテーマを確定し、自らが研究仮説を立て、研究計画に沿って研究を実践する。</p>	教授 岡田 仁

4 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門共通科目	臨床検査学研究方法論	1 前	2			○			オムニバス
専門科目	検査学領域 病態機能	病理病態検査技術論	1 後		2		○		※演習
		神経生理機能検査技術論	1 後		2		○		※演習
	検査学領域 病因解析	病原因子解析検査技術論	1 後		2		○		※演習
		遺伝子検査技術論	1 後		2		○		※演習
	小計 (5 科目)		—	2	8	0	—		
特別研究科目	臨床検査学特別研究 I	1 通	2				○		
	臨床検査学特別研究 II	2 通	2				○		
	臨床検査学特別研究 III	3 通	2				○		
	小計 (3 科目)		—	6	0	0	—		
合計 (8 科目)		—	8	8	0	—			—

5 修了要件等

博士後期課程修了の要件は、本研究科博士後期課程に3年以上在籍し、「専門共通科目」必修2単位、「専門科目」選択2単位以上、臨床検査学特別研究必修6単位の計10単位以上を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

6 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門共通科目	臨床検査学研究方法論	<p>臨床検査に関する幅広い研究テーマに関する質の高い国際専門雑誌の英語論文抄読を行い、臨床検査に関する幅広い視野を養うだけでなく、国際専門誌の読解力や英語力の更なる向上を目指す。その中で、論文中の独創的な視点、仮説の立案、実験・解析・考察、仮説の立証の進め方などについても具体的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(古山達雄/3回) 最近の脈管形成過程に関する研究の概要と、その臨床への応用について文献講読を通して理解する。</p> <p>(樋本尚志/2回) 自己抗体が産生される機序を解明するためにどのような研究がなされてきたのか、その方法論と問題点について解説する。</p> <p>(多田達史/2回) 近年の脂質代謝に関する研究、特にリポ蛋白研究の文献を用い、その内容を理解することで研究の有用性や将来性、問題点について考察し、自身の研究能力向上を目指す。</p> <p>(岡田 仁/2回) 遺伝子、分子生物学分野の最新文献を参考にして、この分野での最先端の研究について議論を行う。</p> <p>(池亀彰茂/2回) 造血器腫瘍における血液検査学の文献を用いて、最新の検査方法や解析法について説明する。さらにその内容の問題点について議論し、独創的な視点での仮説の立案を促す。</p> <p>(徳原康哲/2回) 尿検査をはじめとする一般検査学に関連する研究について理解を深める。新たな研究テーマの立案、実験系の組み立て、検証、そして考察等、研究の進め方について体系的に理解することを目指す。</p> <p>(大栗聖由/2回) 最近の神経筋疾患に関する研究の概要と、その臨床応用に関する文献を購読して、最新の知見について理解する。</p>	<p>教授 古山達雄 教授 樋本尚志 教授 多田達史 教授 岡田 仁 准教授 池亀彰茂 准教授 徳原康哲 講師 大栗聖由</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専 門 科 目	病態機能検査技術論	<p>近年の医療や生命科学の進歩により、がんの研究やその診断、治療法は飛躍的に高まっている。しかしながら、我が国における癌の死亡率は男女ともに死亡原因の第一位となり増加の一途をたどっている。講義では、肺癌、消化器癌、乳癌等における遺伝子および蛋白質の発現解析と臨床病理学的因子との関連について学ぶ。さらにがんの生物学的特性や最近の診断や治療に関する知見を取り入れた学習を行い、がんの臨床検査、診断、治療にかかわる高度医療専門職者としての基盤を養成する。</p> <p>がんの生物学的特徴とがんの臨床病理学的特徴について概説を行い、細胞接着因子やがん遺伝子、がん抑制遺伝子、シグナル伝達、がんと microRNA、がん幹細胞、浸潤と転移等について、臨床病理学的視点からみた診断法と治療法の進歩、予後の推定について最新の文献紹介、文献的考察を行いながら進めていく。</p>	教授 平川栄一郎
	神経生理機能検査技術論	<p>近年神経科学の発展は目覚ましく、多くの神経疾患の病態や原因が明らかになってきている。かつて神経疾患は治らない病とされてきたが、それはもう過去のものとなってきている。本講義では、この目覚ましい神経科学の進歩および最新の検査方法について理解し、病因を解析する最先端の検査方法を開発するため必要な神経系の基礎的な構造、基本的な機能、高次脳機能について学ぶ。さらにさまざまな神経疾患の病態や原因解明のための検査方法、原因（仮説）などについて学ぶ。</p>	教授 古山 達雄
	病原因子解析検査技術論	<p>予防接種の普及と抗菌薬の開発によって多くの微生物感染症が制御可能となり、先進国において微生物感染症はもはや脅威ではなく過去のもの、という風潮がみられた時期もあった。しかし、20世紀終盤になってメチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌などの抗菌薬耐性菌による院内感染症や重症熱性血小板減少症候群、MERS コロナウイルス、HIV、風疹、プリオン、新型コレラ菌 0139 や大腸菌 0157 などによる新興・再興感染症が臨床のみならず社会でも大きな問題となり、現在もわれわれはそれら感染症の脅威に曝されている。細菌感染症に関しては抗菌薬の使用がその治療の主流であるが、全く新しい治療法を開発するための微生物病原因子に関する基礎研究も進められている。</p> <p>本特論では微生物の病原性を解析するための先駆的な潮流である宿主-病原微生物相互作用研究やⅢ型分泌機構研究について概説する。</p>	教授 奥田 潤

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
専門科目	病因解析検査学領域	遺伝子検査技術論	<p>博士前期課程で修得した遺伝子検査の標準化、遺伝子検査技術、遺伝学の基礎知識をさらに深め、実践に直結したグローバルスタンダードな知識と技術を習得する。即ち、</p> <p>①遺伝子検査の標準化では、国際規格である IS015189 の規準をベースに「染色体遺伝子検査の品質保証のための指針」を検査室に定着させるための実践方法を学ぶ。</p> <p>②遺伝子検査技術では、既存の分析法の臨床的実用性を序列化し、さらに汎用性のある検査法を選択し広範な施設で遺伝子検査が定着化する方法を提案する。</p> <p>③遺伝学情報の収集では、遺伝子情報に関する情報リテラシーを確立し、遺伝カウンセリングに必要な情報を具体的に拾い出し、実践できる力量を身に付ける。</p>	教授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究 I	<p>(概要)</p> <p>研究領域における自らの研究課題を明確に決定し、博士論文作成に向けた全体的な研究計画書を立案する。①文献検討を通して研究課題を決定する。②研究課題決定の概要について第1回学術セミナーで発表し討論する。この学術セミナーでは、研究領域間の双方向の交流から独創性や新規性が高い研究成果を目指す。③研究デザイン、方法を検討し、研究計画を立案する。④研究者間の意見交換を通して、研究計画書作成上の課題を明らかにする。⑤研究計画書について研究科委員会の承認を得る。⑥研究遂行における研究倫理について本学で該当する倫理審査会の承認を得る。⑦研究計画書作成過程を自己評価し、自律的に研究テーマを焦点化、研究計画を立案するうえでの自己の課題を明確にする。この過程を通して、自律的に研究計画書を立案する能力を育成する。</p>	
	<p>がん患者などの免疫低下宿主に対する日和見感染症の制御は、超高齢社会を迎える先進諸国では重要な問題であり、緑膿菌など日和見感染菌による腸管経由の血液感染が引き金となる致死性の高い敗血症はもっとも早期に解決すべき問題の1つである。この問題を解決するには、従来の抗菌薬に加えて、新たな防止策の考案が必要とされている。現在までに明らかにされている緑膿菌の腸管経由の内因性血液感染機構について綿密な文献調査を行い、文献調査の結果に基づいて、研究仮説を立て、それを立証するためにはどのような実験系が必要かなど、具体的な研究計画を立案する。</p>	教授 奥田 潤	
	<p>分子生物学や遺伝子解析技術の発展とともに、がん遺伝子や癌抑制遺伝子、細胞接着因子、miRNA等の解析が、その診断や治療、予後に推定に重要な役割を占めてきている。臨床においては、分子標的薬の適応や予後の推定に病理組織材料や細胞診材料を用いた遺伝子解析や発現解析が不可欠な検査となっている。特別研究 I では、消化器癌がんの細胞接着因子やがん遺伝子、シグナル伝達、アポトーシス等をターゲットとしたがんの生物学的特徴と臨床病理学的解析、診断、治療に関連する課題について文献検索や資料を収集し、研究計画を立案する。先行研究論文の抄読や研究デザイン、研究方法等を検討し、研究遂行に必要な材料、方法についての準備を行う。また、動物実験委員会や倫理審査委員会等の承認を得る。</p>	教授 平川栄一郎	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別研究科目	臨床検査学 特別研究 I	<p>寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。</p> <p>特別研究 I では、当分野に関する現在までの知見を理解し、新規性をもった 3 年間で実行可能な研究テーマを明確にする。その上で研究計画を作成し、必要な実験方法の習得を行いながら実験を遂行する。</p>	教授 古山 達雄
		<p>自己免疫性肝疾患における自己抗体の産生、あるいは肝障害の惹起に関する機序を最新の分子生物学的手法あるいは遺伝子学的手法を用いて明らかにしていき、臨床的にどのような価値を有するか検証していく。この過程をとおして、研究活動における新たな問題点や課題について自ら把握し、それらに対してどのように対処すべきかを自ら考案し、自分の考えをわかりやすく説明する能力を養成する。</p>	教授 樋本尚志
		<p>糖尿病を代表とする生活習慣病は、年々増え続け、なかでも死因の上位を占める心疾患・脳血管疾患は動脈硬化症が原因といわれている。最近では、新規 VLDL・LDL-C 低下薬、HDL 増加薬が開発され、脂肪酸由来代謝産物、HDL 機能改善についても注目されており、糖・脂質代謝、動脈硬化に関連する新規サロゲートマーカーの研究・開発を目指す。研究対象として糖・脂質代謝に着目し、特にリポ蛋白代謝、リポ蛋白の構成リン脂質・脂肪酸、構造・機能的アポリポ蛋白などに関する国内外の研究動向、最新のトピックス・研究結果の分析、相互的ディスカッションをおこない、問題点・疑問点を考察し、研究計画書を作成するとともに、研究課題を見いだせる能力を養う。</p>	教授 多田達史
		<p>遺伝子を扱う分野は目覚ましい進歩がみられ、様々な疾患の分子病態が解明されてきている。その成果に基づき、検査学においても遺伝子関連検査法が開発され、診断や予防への応用が行われている。今後も研究により、新しい検査法の開発などが期待される。一方で、遺伝子関連検査は複雑なプロセスで実施され、不慣れな医療従事者も多いことから、結果に対し総合的な解釈を行い診断しなくてはならない。また遺伝子情報は個人情報も含むため、倫理的問題も存在する。特別研究 I では、遺伝子検査学として現在の問題点の把握、そして研究で明確にすべきテーマを確定する。自らが研究仮説を立て、検証していく実験計画を立案できることを目指す。</p>	教授 岡田 仁

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究 I	<p>特別研究 I では、幅広い視野のもと、独自の研究テーマを明確にし、予備実験の結果をもとに、自律的に研究計画書、倫理委員会審査書類等を作成する。その中で、予備試験の必要性と、血球を中心とした表面抗原、細胞内抗原、細胞機能発現等の検査技術の様々な応用法、そして目的とする臨床貢献へ向けた新しい血液学的検査法の開発を考え、計画書等の記載方法を学ぶ。また、実験計画とその遂行から、仮設と結果から生じる問題について考察し、解決に導く能力を習得する。さらに、討論や審査内容の結果から、医療界だけでなく産業界へと視野を広め、研究計画書や倫理委員会審査書類の弱点を理解し、今後の研究遂行を可能とするための、初歩的な研究能力を育成する。</p>	准教授 池亀彰茂
		<p>尿や血液等の生体試料を用いた新規臨床検査法開発に関する研究を行う。生体内に存在するアミノ酸やその他の分子を検出する新規検査法の開発を目的とし、まず、研究計画を立案する。過去の研究報告を参考に、新たな研究内容を考え、そして実験系を組み立てる等、研究遂行に必要とされる能力を養う。また、実験手技に関する知識だけではなく、研究を行う際に必要な倫理的配慮等についても学習し、公正な研究活動を行うための行動規範についても理解を深める。</p>	准教授 徳原康哲
		<p>てんかんや意識障害を評価する脳波検査や神経筋疾患を評価する神経伝導検査の結果から、早期発見や早期鑑別診断が難しい病態が未だに存在する。未だに早期鑑別診断が難しい病態の検査結果に対して、コンピュータを用いた2次解析を行い、新たな鑑別点を見出すことを目的とする。</p> <p>特別研究 I では、神経機能評価検査を用いた病態解析を行うことを目標とする。自ら課題を明確にし、博士論文作成に向けた研究計画を立案する。また、先行研究の文献検索を行い、研究方法論、研究倫理について学ぶ。</p>	講師 大栗聖由
		〈予定〉臨床免疫検査学 I	(未定)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別研究科目	臨床検査学 特別研究Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>研究計画書を吟味・検討し計画を実践する。①「臨床検査学特別研究Ⅰ」で、明らかになった課題を検討し、研究計画書を完成する。②研究計画に則ってデータ収集を開始する。③博士論文全体の研究計画に則って研究を実施し、関連論文(副論文)を作成、査読制度がある国内外の全国学会誌に掲載を達成する。④研究過程の進捗状況を第2回学術セミナーで発表し討論、新たな課題等を発見し、より完成度の高い博士論文を目指す。この展開では、独創性や新規性が高い研究成果を博士論文に反映する。⑤学術セミナーでの意見交換等の結果に基づき、博士論文完成に向けた今後の課題を明らかにする。この過程を通して、自律的に研究論文を作成、発表する能力を育成する。</p>	
		<p>特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。特に、細菌感染症検査や抗菌薬を用いない細菌感染症の予防および治療に応用することのできる未知の知見を得ることを目的とする。</p>	教授 奥田 潤
		<p>研究計画に従い研究を実施、研究結果を蓄積し、まとめていく。研究の実施、結果の整理と解析、論文作成ができる能力を養成し、問題解決能力を涵養する。病理組織材料や細胞診材料、培養細胞を用いて実験を遂行し細胞接着因子やがん遺伝子、シグナル伝達解析を臨床病理学的解析とともに進める。また、必要に応じて動物を用いた実験を行い、遺伝子および蛋白レベルでの解析を行う。研究解析結果を学術セミナー等を通して意見交換を行い博士論文の構築、修正、評価を行う。</p>	教授 平川栄一郎
		<p>寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。</p> <p>特別研究Ⅱでは、計画した実験を遂行するのと並行して、得られた結果の解釈・さらなる検証の必要性等を教員と随時相談しながら、追加実験を行い、結果をまとめていく。同時に、学術セミナー等の意見や当該分野の状況を考慮し計画の検討・見直し作業を随時行う。</p>	教授 古山達雄
		<p>特別研究Ⅰの実験計画に従って、自己免疫性肝疾患における自己抗体の産生されるメカニズムや肝障害を起こす機構の新たな知見を得るべく、研究活動を継続する。なお、この過程をとおして研究活動の問題点やその解決方法について自ら考え、さらに自ら対処できる能力を養成する。また、自分の考えを図表を用いてわかりやすく説明する能力も習得する。</p>	教授 樋本尚志

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別研究科目	臨床検査学 特別研究Ⅱ	<p>特別研究Ⅰで自ら立案した研究計画に沿って、指導教員の指導を受けながら研究を遂行し、データをまとめる。データの統計学的解析手法の検討や検定を行い、結果についての考察を行う。さらに、博士論文全体の進捗状況について中間報告会にて報告する。プレゼンテーション能力、学際的な討議や意見交換能力を養い、論文完成に向けての課題を明確化し、関連論文（副論文）を作成し、査読制度のある国内外の学術雑誌に投稿する。</p>	教授 多田達史
		<p>特別研究Ⅰの研究計画に沿って、研究を実践する。将来、科学的検証能力を備えた研究者として、遺伝子関連研究のハンドリングについてマスターすることに重きを置いている。実験を行う際の安全性の確保そして研究活動における倫理的問題（動物実験および臨床研究）についても学ぶ。</p>	教授 岡田 仁
		<p>特別研究Ⅱでは、臨床貢献できる血液学的検査法（安価、簡易、精度）を目的とし、血球を中心とした表面抗原、細胞内抗原、細胞機能発現についての研究を行う。研究を実践的に進めて、結果をまとめ、各種の解析方法の学びとともに、研究成果の発表の仕方を習得する。また、発表することで、あらゆる方向から研究の課題を明確化することを学ぶ。さらに意見交換を行って、課題を追求し、研究の軌道修正を行い、研究を続行して、論文を完成し、国内外の雑誌に投稿することで、研究者としての一連の基本的な能力を育成する。</p>	准教授 池亀彰茂
		<p>特別研究Ⅰで立案した研究計画に沿って実験を行う。さらに、得られた実験結果を統計的手法等により分析し、実験報告書の作成やプレゼンテーション方式による発表を行う。また、仮説通りに研究が進まなかった場合は、実験結果を考察したうえで計画を修正し、新たな追加実験を行う。このように、研究結果を解析して発表する能力や、実験計画を修正しながら研究を進めていく能力を養う。</p>	准教授 徳原康哲
		<p>特別研究Ⅱでは、自ら立案した研究計画書について吟味、検討した後、データを収集し研究を遂行する。研究遂行時は、得られた結果の解釈やさらなる検証の必要性について、教員と協議しながら研究内容をまとめていく。また、研究計画や進捗状況についてまとめたものを、論文や発表スライドとして作成し専門学会で報告する。同時に、学際的な討議や意見交換の能力、わかりやすくまとめる力、プレゼンテーション能力を習得する。</p>	講師 大栗聖由
		〈予定〉臨床免疫検査学 Ⅱ	(未定)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別研究科目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>研究過程を推進し、博士論文を完成する。①研究計画に基づき、データを収集し、目的に沿った方法で分析する。②分析結果を論述し、研究目的に沿って、結果を考察、結論を導き出す。③博士論文の総括に関する概要について第3回学術セミナーで発表し討論する。この学術セミナーでは、専門領域間の双方向の交流から独創性や新規性が高い研究成果の発信を目指す。④他者からの意見や指摘等について検討を重ね、必要に応じて博士論文を修正する。⑤博士論文を完成し博士学位を取得する。⑥博士論文作成の過程を自己評価し、研究者として自律的に独創的な研究を推進するための課題を明確にする。博士論文審査・発表を通して、論文作成過程を自己評価し、研究者として自律的に独創的な研究を推進する能力を育成する。</p>	
		<p>特別研究Ⅱの研究活動により得られたデータを英語でまとめ、査読制度のある国際又は全国学会誌に主論文として発表する。また、主論文に関連する副論文も発表することが望ましい。最終的に発表した主論文および副論文の内容を統合し、論文審査及び最終試験に合格し、博士学位を取得する。以上のような臨床検査学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指導を通して、将来、何事も自分で解決できる、科学的素養を備えた世界に通用する博士号取得研究者の育成を目指す。</p>	教授 奥田 潤
		<p>研究計画に基づき研究結果の分析を進め、博士論文全体の再構築、修正を行ないながら博士論文の完成を目指す。特別研究Ⅰ・Ⅱで得られた結果をもとに考察を深め論文を作成し、国際誌への論文投稿を行う。また、論文審査と学会発表等を通して、意見交換を重ね、自律的で独創的な研究課題を明らかにし、科学的思考力の総括を行う。特別研究を通じて得られた技術や知識、経験をもとに研究プロセスを自己評価し、教育研究者としての能力を育成する。</p>	教授 平川栄一郎
		<p>寿命決定に関わるインスリンシグナル経路上の因子である FoxO 転写因子の血管系ならびに神経系での生理機能を明らかにすることを研究目的とする。</p> <p>特別研究Ⅲでは、実験結果の整理・検討・まとめを行い、必要に応じて追加実験を行う。適宜、学会での発表を行い、最終的に英文で論文を作成し、学術雑誌への投稿、掲載までの一連の作業を経験する。これらを通して得られた結果を発信していく方法を学ぶ。</p>	教授 古山達雄

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特 別 研 究 科 目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	<p>特別研究ⅠおよびⅡの研究活動によって得られた研究成果を英文で博士論文としてまとめ、査読付きの科学雑誌に投稿する。査読者の意見に従って修正、または追加実験を行ったうえで博士論文を完成させる。この過程をとおして、高度な専門知識を有するのみならず、研究成果をまとめあげ、新たな現象に対する理論的裏付けができ、図表を用いて簡潔明瞭にプレゼンテーションできるなどの科学的査証能力を育成する。</p>	教授 樋本尚志
		<p>特別研究Ⅱを通して、リポ蛋白機能評価に関する臨床検査法における研究課題を明確化し、追加実験をおこなう。論文作成を目的にデータをまとめ、英文科学雑誌へ論文を投稿する。査読評価などから考察を深め、博士論文完成を目指す。博士論文作成の過程により、自律的に独創的な研究推進能力を養う。関連学会発表や博士論文審査を通して、研究する。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、研究者として、自律的に独創的な研究を推進する能力を備え、博士号を取得した臨床検査技師育成を目指す。</p>	教授 多田達史
		<p>特別研究Ⅱの研究活動により得られたデータをまとめ、学会および論文発表を行う。グローバルスタンダードに対応するため、英語でデータをまとめ国際学会そして欧文学術誌に発表できるようにする。さらに博士学位を取得の準備を行う。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの指導を通して、国際的視点を持ち科学的検証ができる博士号取得臨床検査技師の育成を目指す。</p>	教授 岡田 仁
		<p>特別研究Ⅲでは、投稿論文に対する査読内容についての研究の見直し、計画、査読者への説明等を学ぶ。更なる軌道修正がある場合は、その課題を解決に導くための方策を考え、論文受理に向けて努力し、受理された達成感を味わう。さらに自らの研究について説明する能力を養い、博士論文審査・発表からも、研究の楽しさと難しさ、達成感を学ぶ。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、臨床貢献できる血液学的検査法（安価、簡易、精度）の開発とともに、課題に対する独創的な意見、研究実践力、発信能力を持つ研究者の育成を目的とする。</p>	准教授 池亀彰茂
		<p>特別研究Ⅱで得られたデータをまとめたうえで論文の構成を考え、そして推敲する。作成した論文を査読制度のある英文学術誌に投稿し、掲載を目指す。その過程において、投稿規定に合わせた論文の作成方法、さらに、査読者からの指摘に対する対応等、学術論文を発表するまでに必要とされる能力を養う。また、これまでの研究成果は、報告会や学会で適宜発表する。特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、自らテーマを立案して実験を行い、研究成果を学会や論文で発表できる博士号取得研究者の育成を目指す。</p>	准教授 徳原康哲

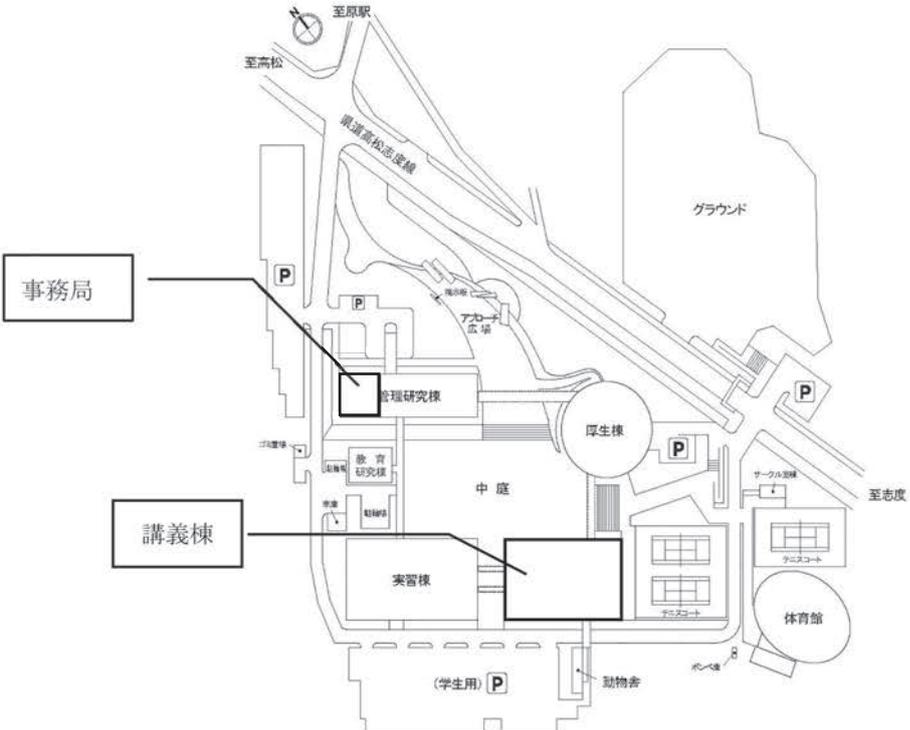
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当教員
特別 研究 科目	臨床検査学 特別研究Ⅲ	<p>特別研究Ⅱの研究活動により得られた研究データを博士論文としてまとめ、査読付きの科学雑誌に投稿する。そして、博士論文審査・発表を通して、論文作成を自らの力で行える能力を身につける。また、先駆的实践指導ができる管理者、教育・研究者として、自律的・独創的な研究を推進する能力を育成する。</p>	講師 大栗聖由
		〈予定〉臨床免疫検査学 Ⅲ	(未定)

大学までの交通案内



- 西方面から
高松から 国道11号 車で30分
ことでん志度線原駅下車 徒歩10分
- 東方面から
JR高徳線 志度駅から 車で5分

入学試験会場案内図





香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地 1

TEL 087-870-1212

ホームページ

<https://www.kagawa-puhs.ac.jp/>